

歴史 の風

ふくおか 文化財だより

Vol.10 2017年8月号

～発見100年記念特別展～

よみがえれ！^{こうろかん}鴻臚館



重要文化財
源氏物語絵巻紙帖「絵合」
京都国立博物館蔵

2017年、鴻臚館跡は、中山平次郎博士による発見から100年、旧平和台野球場での発掘調査の開始から30年を迎えます。これを記念し、「よみがえれ！鴻臚

^{からもの}館—行き交う人々と唐物—」と題した特別展示を9/7～10/22

に福岡市博物館で開催します。発掘成果の集大成として鴻臚館跡から出土した名品が一堂に会するほか、鴻臚館を通じて日本に輸入され平安貴族に愛された「唐物」に焦点を当て、唐物と鴻臚館が日本の歴史に果たした役割を考えます。

展示期間中には、講演会・シンポジウムのほか、古代衣装ファッションショー、雅楽コンサート、におい袋づくりワークショップ、作ってみよう！古代スイーツ、など古代の鴻臚館を五感で体感できるイベントを多数開催予定です。

イベントの詳細は福岡市博物館HP等をご確認ください。

HPはこちら → <http://museum.city.fukuoka.jp/>

～ここにも遺跡～

→ 中世・博多は護りも固い！

博多の町にひろがる中世の都市遺跡、博多遺跡群。外国との交易により繁栄した博多遺跡群は海に面した港町だったのですが、当時の町はどこまで広がっていたのでしょうか。それを考える上で重要な遺構が祇園町にあります。その名は「房州堀」。

時は戦国時代。当時博多を支配していた大友氏の一族、臼杵安房守は町の南側に堀を築き、その堀は安房守の名から「房州堀」と呼ばれるようになった・・・と江戸時代の記録『筑前国続風土記』に書かれています。

現在では堀は埋まっていますが、発掘調査で房州堀の痕跡を確認できました。その場所はキャナルシティの東側で、当時はここが博多の町の南限だったということがわかります。



房州堀は那珂川と御笠川をつなぐように掘られ、博多の町の南東のまもりを固めています。

→ 埋文センターのヒ・ミ・ツ

はとう 波濤を超えて大船来る ～博多湾いかりいしの碇石～

これ、なんでしょう？埋蔵文まいぞうぶん
化財センターかざいの入り口正面に
横たわっています。



ベンチかな？いえいえ、座つ

埋文センター入口正面の？

ていただいでは困るので普段は赤いロープを張っています。

実はこれ、日宋貿易にっそうで活躍した中国商船の碇石なのです。今から1000年～800年前、中国で建造された外洋船は長さが30～40mにも及び、数百人の船員が乗船していたといえます。博多湾には舶来品はくらいひんを満載した巨大な中国船そうが何艘も停泊していたのです。碇石は、下の写真のように、木の軸に通して固定していました。日本各地から出土している碇石は全部で66点、その内の29点が博多湾出土もしくは博多周辺に現存しています（2008年段階）。そのうち、福岡市埋蔵文化財センターでは6点が収蔵されています。1カ所で6点もの碇石を持っているのは、全国で一番なんですよ。そのほかにも、



碇の復元品

1点だけですが韓国船の碇石も、収蔵庫に眠っています。

海に生きた博多ならではの出土品です。是非ご覧ください。

→ 新たな福岡市登録有形文化財

かいじま

～旧高宮貝島家住宅～

明治時代に石炭経営により我が国の近代化に貢献した「筑豊の炭鉱王」貝島太助たすけ氏の弟，貝島嘉蔵かぞう氏の邸宅が，南区高宮に残されていることをご存じでしょうか。



正面玄関

この邸宅は，大正時代の直方市のうがたに建築され、昭和2年に現在地いちくに移築されました。大規模な近代和風建築としては市内では貴重なもので，平成17

年に貝島家より本市が寄贈を受けて管理を行っています。書院造しよいんづくりや数寄屋造すきやづくりの室内外は当時の優れた意匠いしょうで満たされており，石炭



茶室

産業全盛期の炭鉱経営者一族の歴史を今に伝える貴重な文化財といえます。このことから、永く保存活用を図るために、この6月に主屋と茶室を本市の登録有形文化財しゅおくとしました。今後，公開にむけて整備をすすめていく予定です。詳しくは，下記の5月26日の記者発表資料をご覧ください。 → <http://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/kouhou-hodo/hodo-happyo/h29/5.html>

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/kouhou-hodo/hodo-happyo/h29/5.html>

→二千年の歴史の「厚み」

博多区

はかた

博多遺跡群

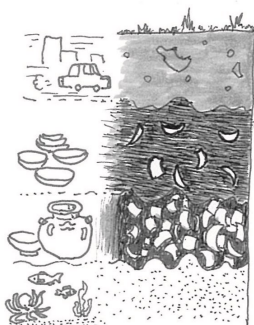
やよい

博多の町には、弥生時代から

現代まで2000年以上の歴史があります。発掘調査は、その歴史を「掘り下げていく」作業です。今の地面から1mぐらい下までは、江戸時代に使われた茶碗や明治時代以後に使われた生活道具などが見つかります。

さらに掘り下げると、土の質が黒っぽい砂地になります。この土は鎌倉時代から室町時代にかけての、博多が外国との交易でにぎわっていた時代のものです。ここからは中国製の陶磁器とうじきが大量に出土し、当時の博多の町の繁栄ぶりがわかります。

そして3m以上掘り下げると、博多の町ができた2000年前の白い砂浜が現れます。博多の町の原点が砂浜の上にあったことが、発掘調査で知ることができます。



江戸時代～現代の土

鎌倉～室町時代の陶磁器がたくさん出ます

街ができる以前の砂浜

砂浜の上に2000年分の歴史が堆積しています。

→ 8・9月のイベント情報

8月

6日 県指定無形文化財 げんせい ほうりゆう もうそう び わ 玄清法流盲僧琵琶 公開
場所：南区高宮1 成就院 じょうじゅいん

13～15日 市指定無形文化財 田隈の盆押し・盆綱引き 公開
場所：早良区野芥2 地録天神社

15日 市指定無形文化財 草場の盆綱引き 公開
場所：西区大字草場 農協倉庫

16日 市指定無形文化財 西浦のかずら引き 公開
場所：西区大字西浦 西浦漁港

19日 市指定無形文化財 志賀島の盆踊り 公開
場所：東区大字志賀島 渡船場の横の広場

17日 市指定無形民俗文化財 宇田川原豊年獅子舞 公開
場所：西区周船寺 丸隈山古墳

9月

12日～14日 市指定無形文化財 筥崎宮神幸祭 公開
場所：東区箱崎1 筥崎宮

16日 埋蔵文化財センター 考古学講座 第3回
「博多発掘40年のあゆみ」 講師：池崎 譲二氏

16日 板付弥生のムラ「土器づくり体験教室」

※応募要項は市政だより8月15日号・ホームページをご覧ください。

福岡市

経済観光文化局文化財部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理に関すること 文化財財保護課 TEL:711-4666

史跡の整備・活用に関すること 史跡整備活用課 TEL:711-4784

埋蔵文化財の発掘調査，手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL:571-2921

ホームページ「福岡市の文化財」

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！

